

改定のポイント

港湾請負工事積算基準は、港湾および海岸土木請負工事の予定価格の基礎となる積算価格を算出するためのものである。平成26年度積算基準においては、各種実態調査の結果を基に歩掛等の改定を実施。改定内容の詳細については国土交通省港湾局HP掲載の「平成26年度 港湾請負工事積算基準の改定について（新旧対比表）」を参照。

→ http://www.mlit.go.jp/kowan/kowan_fr5_000019.html

1. 実態調査結果による施工歩掛改定

(1) ブロック運搬据付・撤去工の歩掛改定

【改定工種】

- ・ 本体ブロック据付、被覆ブロック据付、根固ブロック据付、消波ブロック据付（上記歩掛を適用する工種を含む）
- ・ ブロック撤去

【改定内容】

- ① 作業船、作業機械の改定
 - ・ 海上クレーンおよび陸上クレーンの大型化、陸上運搬機械の規格改定
 - ・ 起重機船〔非航旋回〕300 t吊の単価表新規策定
- ② 作業能力の改定（標準作業時間 b_i および能力係数E1～E5の見直し）

改定のポイント

(2) 陸上機械の改定

- ①100 t 吊未満のトラッククレーンについて基準から削除
例) トラッククレーン25 t 吊→ラフテレーンクレーン25 t 吊
- ②アスファルトフィニッシャの規格改定
(施工幅2.4m~4.5m→施工幅2.4~6.0m 排出ガス対策型 (第1次基準値))
- ③陸上機械の各種単価表の改定 (主燃料、運転時間、供用日数)
コンクリートフィニッシャ、コンクリートスプレッタ、コンクリートレベラ、
インナバイブレータ、散水車、発動発電機 (陸上)、ディストリビュータ

2. 施工パッケージ型積算方式の導入

- ①被覆・根固工：根固ブロック製作について施工パッケージ型積算を導入 (1パッケージ)
- ②土 工：土工について施工パッケージ型積算を導入 (13パッケージ)
- ③構造物撤去工：コンクリート殻運搬について施工パッケージ型積算を導入 (1パッケージ)

改定概要

①作業船、作業機械の改定

- ・陸上クレーンおよび海上クレーンの大型化、陸上運搬機械の規格改定

新旧対比（青：現行）→（赤：改定）

◆陸上クレーン

ブロック質量	転置、運搬、据付（陸上連携方式、陸海一貫方式）、横持ち	
	ラフテークレーン	クローラクレーン
4.5t以下	(油) 25 t吊	-
4.5t超え7.5t〃	(油) 25 t吊 → (油) 35 t吊	
7.5t〃12.5t〃	(油) 35 t吊 → (油) 50 t吊	
12.5t〃22.0t〃	(油) 45 t吊 → (油) 50 t吊	
22.0t〃31.0t〃		
31.0t〃37.5t〃		(油) 80 t吊 → (油) 100 t吊
37.5t〃50.0t〃		(油) 100 t吊 → (油) 150 t吊
50.0t〃70.0t〃		(油) 100 t吊 → (油) 150 t吊
70.0t〃100.0t〃		(油) 150 t吊 → (油) 200 t吊
		現場条件による → (油) 200 t吊

◆陸上運搬機械

ブロック質量	転置、運搬、据付（陸上連携方式、陸海一貫方式）、横持ち	
	トラックまたはトレー	
4.5t以下	11t積	
4.5t超え7.5t〃	15t積	→ 11t積
7.5t〃12.5t〃	15t積	→ 25t積
12.5t〃22.0t〃	25t積	
22.0t〃31.0t〃	32t積	
31.0t〃37.5t〃	40t積	
37.5t〃50.0t〃	50t積	
50.0t〃70.0t〃	60または70t積	
70.0t〃100.0t〃	現場条件による	

◆海上クレーン

ブロック質量	起重機船(非航旋回)		クレーン付台船	
	起重機船	引 船	クレーン付台船	引 船
4.5t以下	-	-	45~50→80t吊	鋼D450→500PS型
4.5t超え7.5t〃	- → 鋼D120t吊	- → 鋼D 700PS型	80t吊 → -	鋼D500PS型 → -
7.5t〃12.5t〃	- → 鋼D150t吊	- → 鋼D 700PS型	100t吊 → -	鋼D550PS型 → -
12.5t〃22.0t〃	鋼D100→150t吊	鋼D 600→ 700PS型	-	
22.0t〃31.0t〃	鋼D100→200t吊	鋼D 600→ 800PS型		
31.0t〃37.5t〃	鋼D120→200t吊	鋼D 700→ 800PS型		
37.5t〃50.0t〃	鋼D150→250t吊	鋼D 700→1,000PS型		
50.0t〃70.0t〃	鋼D200→250t吊	鋼D 800→1,000PS型		
70.0t〃100.0t〃	鋼D250→300t吊	鋼D1,000→1,500PS型		

改定概要

①作業船、作業機械の改定

- ・起重機船〔非航旋回〕300 t 吊の単価表新規策定

新旧対比（青：現行）→（赤：改定）

起重機船（非航旋回）運転 1 日当り

就業 8 時間

名称	形状寸法	単位	数 量					摘 要	
			鋼 D 25t吊 88kW	30t吊 103kW	40t吊 143kW	50t吊 177kW	70t吊 235kW		100t吊 313kW
主 燃 料	重 油 A	L	43	50	69	86	114	151	運転 2h
			85	100	138	171	228	303	運転 4h
			128	149	208	257	341	454	運転 6h
船 団 長		人	1 × β	1 × β	1 × β	1 × β	1 × β	1 × β	
高 級 船 員		"	1 × β	1 × β	1 × β	1 × β	1 × β	1 × β	
普 通 船 員		"	3 × β	3 × β	4 × β	4 × β	4 × β	5 × β	

名称	形状寸法	単位	数 量					摘 要
			鋼 D 120t吊 353kW	150t吊 405kW	200t吊 588kW	250t吊 736kW	300t吊 883kW	
主 燃 料	重 油 A	L	171	196	285	356	427	運転 2h
			342	392	569	712	855	運転 4h
			512	588	854	1,069	1,282	運転 6h
船 団 長		人	1 × β	1 × β	1 × β	1 × β	1 × β	
高 級 船 員		"	1 × β	1 × β	1 × β	1 × β	1 × β	
普 通 船 員		"	5 × β	5 × β	6 × β	6 × β	6 × β	

改定概要

②作業能力の改定（標準作業時間biおよび能力係数E1～E5の見直し）

新旧対比（青：現行）→（赤：改定）

転置、横持ち、据付、積込、撤去等 作業時間算定式

$$C_{m1} = b_i \times E_1 \times E_2 \times E_3 \times E_4 \times E_5 \quad (\text{小数2位四捨五入})$$

C_{m1} : 1個当り作業時間(分/個)

b_i : 標準作業時間

E_1 : 作業種類能力係数

E_2 : ブロック種類能力係数

E_3 : 施工区分能力係数

E_4 : ブロック質量能力係数

E_5 : ウィンチ移動能力係数/横持ち能力係数

◆標準作業時間

bi	
10分	→ 8.5分

◆作業種類能力係数

係数区分	E1
積込	0.90
積込（海上）	1.00
転置	0.90
仮置	0.90
据付	1.20
据付（乱積）	1.00
撤去	1.20
撤去・仮置	1.20
撤去・据付	1.30
撤去・据付（乱積）	1.30 → 1.20

◆ブロック種類能力係数

係数区分	E2
本体ブロック （L型・セルラーブロック）	1.20
本体ブロック （本体方塊・直立消波・蓋ブロック）	1.10
異形ブロック	1.00
根固ブロック	1.10

◆施工区分能力係数

係数区分	E3
海上	1.00
陸上	0.90

◆ブロック質量能力係数

係数区分	E4
4.5t以下	0.40 → 0.50
4.5～ 7.5 t 以下	0.55 → 0.65
7.5～ 12.5 t 以下	0.65 → 0.70
12.5～ 22.0 t 以下	0.75 → 0.80
22.0～ 31.0 t 以下	0.85 → 0.90
31.0～ 37.5 t 以下	0.90 → 0.95
37.5～ 50.0 t 以下	1.00
50.0～ 70.0 t 以下	1.10 → 1.05
70.0～100.0 t 以下	1.20 → 1.15

◆ウィンチ移動能力係数/横持ち能力係数

係数区分	E5
なし	1.00
あり	1.25
横持ち	2.00 → 1.60

船舶および機械器具等の損料算定表の改定について

◆作業船等の損料算定基準は実態調査結果を基に2年に1回のサイクルで改定

- ・実態調査は港湾・空港土木工事で使用する作業船等を保有する会社（約400社）を対象に毎年実施
- ・調査項目：購入価格、運転時間、運転日数、維持修理費、管理費等

◆損料算定表の改定概要（平成26年4月以降適用）

- ・新造船価及び維持修理費の上昇等により、12船種において供用日当たり損料額で1%～5%上昇。

分類	船種・分類	比較基準年度	基礎価格	標準使用年数	年間標準運転時間	年間標準運転日数	年間標準供用日数	維持修理費率	年間管理費率	供用日当たり損料額
主 作 業 船	ポンプ浚渫船(1,100PS未満)	H24	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.12	1.00	1.03
	ポンプ浚渫船(1,100PS以上)	H24	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.30	1.00	1.03
	バックホウ浚渫船	H24	1.02	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.01
	自航起重機船(旋回)	H24	1.04	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.03
	起重機船(旋回)	H24	1.03	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.03
	クレーン付台船	H24	1.01	0.93	—	—	1.00	1.00	1.00	1.02
	ケーソン製作用台船	H24	1.05	1.00	—	—	1.00	1.00	1.00	1.05
	自己昇降式台船	H24	1.03	1.00	—	—	1.00	1.00	1.00	1.02
	深層混合処理船	H24	1.05	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.05
	上記以外の主作業船(12船種)(※1)	H24	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
付 属 作 業 船	揚錨船	H24	1.04	1.00	—	1.00	1.00	1.01	1.00	1.04
	引船(鋼製)	H24	1.02	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.02
	潜水土船	H24	1.05	1.00	—	1.00	1.00	1.00	1.00	1.05
	上記以外の付属作業船(9船種)(※2)	H24	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
全船種平均										1.01

(※1) 汚泥浚渫船、グラブ浚渫船、マイクロポンプ船、リクレーマ船、バージアンローダ船、空気圧送船、自航起重機船(固定)、起重機船(固定)、杭打船、コンクリートミキサー船、サンドドレーン船、サンドコンパクション船

(※2) 押船、交通船、ガット船、ガットバージ、石運船、土運船、押航土運船、台船、スパット台船